

1 講座実施計画書及び実施状況

インターネットを利用した講義配信による研修講座実施計画書

1 講座実施機関名 北海道立特殊教育センター

2 講座の趣旨

特別支援教育をすすめていく際の実践上の課題について、講義、実技、演習等をととして解決の支援を行う。

3 講座の内容

2日間にわたって開催される研修会の選択講座のひとつ（講義B）として実施する。（他の講座との関連については「9 備考」を参照。）

4 講座の対象者及び定員

北海道内の小・中学校、盲学校、聾学校及び養護学校教職員等 100名

5 実施予定日・時間

(1) 平成15年7月31日（木）10:00～12:00

(2) 平成15年8月1日（金）10:00～12:00

6 講座の日程

	内 容	形態	時 間	配信する講義・担当者	資料
(1)	LD, ADHD等の特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と指導	講義	10:00～12:00	文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課特別支援教育調査官 柘植 雅義 (6月17日「LD, ADHD等軽度発達障害への対応」)	レジメ他
(2)	LD, ADHD等の特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と指導	講義	10:00～12:00	文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課特別支援教育調査官 柘植 雅義 (6月17日「LD, ADHD等軽度発達障害への対応」)	レジメ他

7 講座担当者 実施機関： 情緒障害教育室 矢口 明
特殊研： 情報教育研究部 大杉 成喜

8 講座実施までのスケジュール

3月19日 受信申し込み

5月 6日 受信確認依頼

5月 7日 実施機関担当者の変更と受信確認

5月14日 講義利用に関する確認

9 備考

研修講座全体の構成と日程

<第1日 7月31日(木)>

	9:30	受付			
I	10:00	◆講義・実技A 「特殊教育用コンテンツの作成」① (映像を活用した教材作成)	◆講義B 「LD, ADHD等の特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と指導」	◆講義・演習C 「特殊学級経営と学習指導」	◇自己研修 ○実践上の課題に応じた個人研究
	12:00		インターネット配信		
昼食・休憩					
II	13:00	◆講義・実技A 「特殊教育用コンテンツの作成」② (映像を活用した教材作成)	◆講義・演習D 「自閉症児の理解と指導」	◆講義E 「今後の特別支援教育の在り方について」	◇自己研修 ○実践上の課題に応じた個人研究
	14:45				
III	15:00	◆講義・実技A 「特殊教育用コンテンツの作成」③ (映像を活用した教材作成)	◆実践報告F 「乳幼児のコミュニケーション発達支援」	◇自己研修 ○実践上の課題に応じた個人研究	
	16:45				

<第2日 8月1日(金)>

	9:30	受付			
I	10:00	◆講義・実技G 「特殊教育用コンテンツの作成」① (音楽素材を活用した教材作成)	◆講義B 「LD, ADHD等の特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と指導」	◆講義・演習C 「特殊学級経営と学習指導」	◇自己研修 ○実践上の課題に応じた個人研究
	12:00		インターネット配信		
昼食・休憩					
II	13:00	◆講義・実技G 「特殊教育用コンテンツの作成」② (音楽素材を活用した教材作成)	◆講義・演習D 「自閉症児の理解と指導」	◆講義E 「今後の特別支援教育の在り方について」	◇自己研修 ○実践上の課題に応じた個人研究
	14:45				
III	15:00	◆講義・実技G 「特殊教育用コンテンツの作成」③ (音楽素材を活用した教材作成)	◆実践報告F 「乳幼児のコミュニケーション発達支援」	◇自己研修 ○実践上の課題に応じた個人研究	
	16:45				

北海道立特殊教育センター

受信場所：北海道立特殊教育センター 大研修室

講座名：「平成15年度 夏期自主的研修セミナー」の1コマ「LD, ADHD等の特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と指導」として実施。いくつかの講義の中から選択し受講する形態である。講義配信については視聴のみ。最後に少し質疑応答の時間が取られ、担当者が答えられる範囲で回答された。

実施日時：平成15年7月31日(木) 8月1日(金) 10:00～12:00

受講者：1日目86名 2日目44名

受信状況：画像音声ともおおむね良好

講義視聴：No.177「LD, ADHD等軽度発達障害への対応」柘植 雅義 (01:19:32)

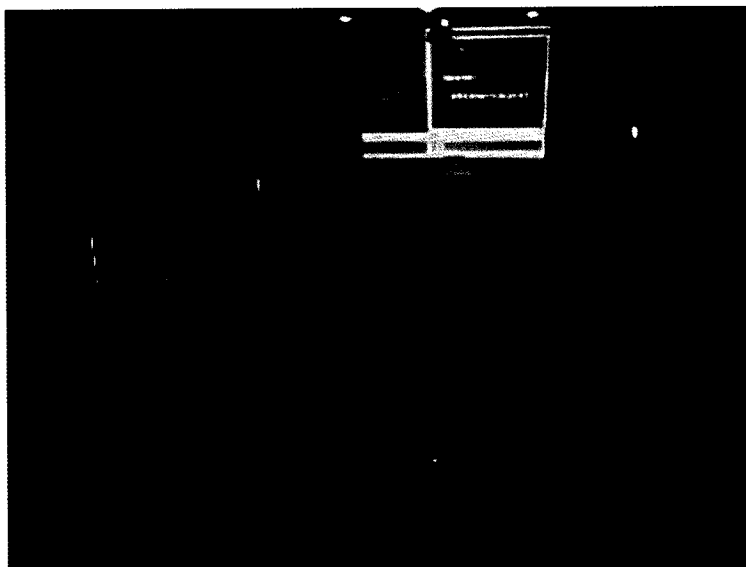
視聴の様子

1日目

- ・最初に「特殊研から送付された資料が短期研修時の資料をそのまま印刷して配るのは好ましくない。せめて、タイトル等を講義配信用に作り直したレジメを用意してほしい。」との指摘をいただいた。北海道立特殊教育センターではプレゼン資料がPowerPointの場合はそれをハンドアウト資料（6分割で表示）として印刷配布しているのでぜひそうしてほしいとの依頼を受けた。速やかに竹林地先生に連絡を取り、中休みにプレゼン資料を印刷配布した。結果として、このハンドアウトの配布は好評であった。
- ・コンテンツの「3.支援体制の構築に向けた取り組み」の前で中休みをとる（11時頃）
- ・講義の中の海外の資料や特別支援教育基礎資料を参照にするところでは、会場担当の職員が照明を明るくして視聴を進められた。

2日目

- ・講座タイトルが「LD, ADHD等の特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と指導」であったが、配信の講義内容は教育制度や施策を中心とした話であり、1日目のアンケートではタイトルの「理解と指導」とギャップがあったとの指摘が多かった。翌日は、最初にセンター職員から講座のタイトルと配信講義の内容が少し違うことについて説明があった。
- ・1日目は配信される画面構成をそのままプロジェクタで表示していたが、2日目は



は目次を表示せず、ビデオ画面を200%に拡大して表示を行った。画面のスペースの関係でビデオ画面は左右が切られた縦長表示となる。人物が左右に少し動くと切れてしまうので、担当者がそれに合わせて表示を微調整した。

センターの講座評価より

- ・センターのアンケートでは、1日目の結果は「大いに満足（13.6％）満足（54.2％）やや不満（27.1％）不満（5.1％）（回答率68.6％）」という結果であった。満足度の平均点は2.8で他の講義と比べて低いそうである。これは講義配信という一方的な形態であること、「講座タイトルと講義内容にギャップがあった」ためと考えられる。「具体的な子どもの指導についての話がなかった。」という指摘が多かったことも理由と考えられる。
- ・「講義は予想したものとは違っていたが、内容については不満はない。」という意見もあった。ただし、「子どもの指導については連続する別の講座で紹介する必要がある」という意見が見られた。事前にシラバス等の提示があると受講者にもわかりやすいとの意見をいただいた。
- ・講義を収録する時点で、インターネットによる講義配信を想定した講義の構成を考える必要があろう。当初のコンセプトである「短期研修の講義の一部をそのままインターネットで配信する」というものには無理があると考えられる。「講義配信のための収録を行う講義」についてそのノウハウをまとめて講師に伝える必要があろう。

インターネットを利用した講義配信による研修講座実施計画書

1 講座実施機関名 宮城県特殊教育センター

2 講座の趣旨

(1) 「軽度発達障害児の理解と指導」について研修を行う。

(長期研修員の研修講座の一つとして実施する。長期研修員の研修講座では全障害についての理解を深めるための講座が用意されている。)

3 講座の内容

(1) 「軽度発達障害児の理解と指導」

LD, ADHD, 高機能自閉症等に関するもの(概要、指導法等)

60分の講義配信を受け、参加者で協議を行う。担当指導主事が全体を進めて行く。

4 講座の対象者及び定員

宮城県教育センター長期研修員 15名(特殊教育諸学校及び特殊学級の教員)

5 実施予定日・時間 平成15年7月18日(金) 13:30~16:00

6 講座の日程

内 容	形態	時 間	配信する講義・担当者	資料
軽度発達障害児の理解と指導	講義 協議	13:30~ 全体の時間配分 は未定。配信希望 内容は60分	情緒障害教育研究部長 渥美 義賢 「軽度発達障害児の理解と指導」 (別撮り)	配信内容 レジメ等
まとめ	協議	~16:00		

7 講座担当者 実施機関:

内容について 指導主事
技術面について

鈴木 眞喜夫 chief@tokusyu.myswan.ne.jp
相澤 一夫 アドレスは上記に同じ

特殊研: 視覚障害教育研究部 澤田 真弓

8 講座実施までのスケジュール

- ・15年度に入ってから参加者(長期研修員)15名の名簿を研究所に送付。
- ・技術面の打ち合わせについては特殊研担当者(大杉)より連絡を入れる。
- ・レジメ等のテキスト送付
- ・当日内容面で質問がでた場合は、後日回答できるようにしていく。
- ・今年度試行であり、正式実施に向けてより良いものにしていくため、当日、特殊研より1名、センターに伺う。

宮城県特殊教育センター

受信場所：宮城県特殊教育センター 大講義室

講座名：「軽度発達障害児の理解と指導」（長期研修員の研修講座の一つとして実施）

実施日時：平成15年7月18日(金) 13:30～16:00

受講者：宮城県特殊教育センター長期研修員 14名（特殊教育諸学校及び小・中学校の教員）

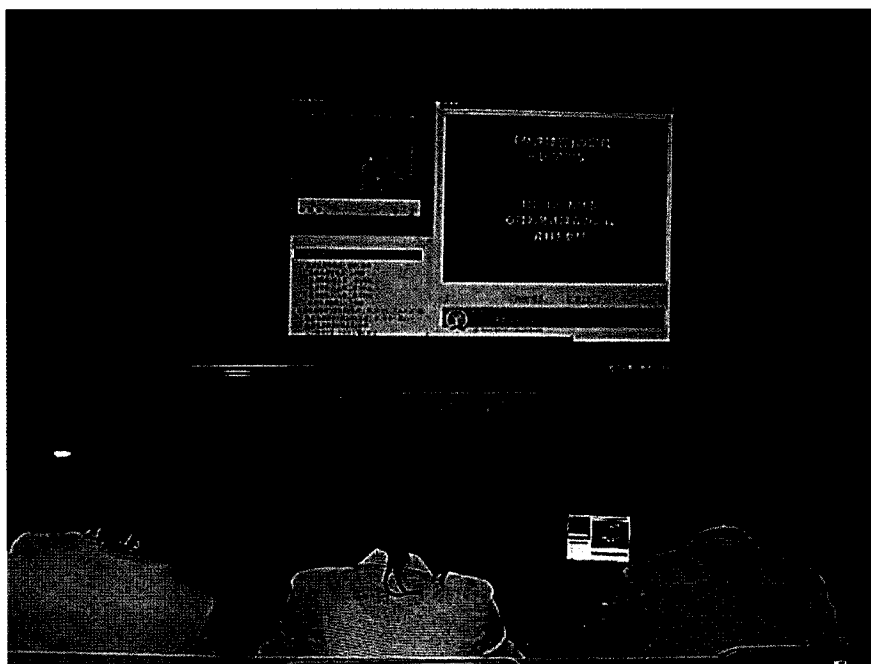
受信状況：画像音声ともおおむね良好だが、若干データの遅延がみられた。（保護者支援の話の時に、次の画面になっている。途中で3秒ほど画面が止まる。）

講義視聴：No.173「軽度発達障害児の理解と指導」渥美 義賢（01:02:21）

60分の講義配信を受け、参加者で協議を行う。担当指導主事が全体を進める。

受講者より：

- ・画面に変化がなかったので、資料を見ながら聞くという感じであった。どちらかと言えばラジオ風であった。テレビ番組のようになつたらよい。
- ・画面として動きが欲しい。ビデオ等利用してもらえると分かりやすい。NHKの「にんげんゆうゆう」のように実際の場面等の紹介があった方が分かりやすいし飽きない。
- ・双方向でできて、視聴のあと、質問に答えてもらえるとと思っていた。



センター職員より：

- ・プレゼンも含めてビデオで撮って、それを配れば良い内容ではないか。その場で聞きたいことがあった場合に対応できるようなものであると良い。
- ・資料があり、講義を聴いていたら、あえて講師の顔を見なくてもよい構成ではないかと感じた。あの資料とともにプレゼンの画面資料が手元にあったら分かりやすい。
- ・我々はテレビを見慣れてしまっており、目が肥えているので、ものたりなく感じてしまう。変化がないので1時間全部聞くのは辛い。項目ごとに構造化するなり、ブロック化されると使いやすくなるのではないか。現在もスライドごとに、項目をクリックしたらそこに飛ぶようになっているが、前後関係がわかるような構成になっているとよい。
- ・ターゲットをどの辺におくかによって、内容がちがってくるであろう。初心者向けなのか、ある程度基礎のできている人を対象にするか、いくつかのパターンが欲しい。
- ・今後、配信メニューが増えていくのであろうが、インデックスのところで、どのくらいの時間で、どのような内容なのかが分かるようにしてほしい。シラバスが欲しい。
- ・講義内容で、シナリオのあるようなものもあってもいいが、研修員とのやりとりもあるような構成があると良い。研究所ではこのような講義をしているのかというような、臨場感のあるものがいいのではないか。
- ・特殊研へ旅費を出して行かなくても、こちらで、生で講師の先生の講義が聞ける。向こうで受講している人と同じ物をというのが欲しい。同じ講義を聞けるのだということがメリットではないか。質問もできるような環境があると良い。

考察：

- ・ニーズ調査をしているし、今回もセンターの受講者がどのような人たちなのか、センターと打ち合わせをして、内容も検討してきている。60分が本当に良いのか、30分が良いのか等、時間も何種類もあっていいのではないかと、試行結果を見ながら、検討していく。今後、さまざまなパターンを考えながら作成していく必要があるだろうと思う。さまざまなパターンの中から、センターでチョイスすることができるようにしたい。

インターネットを利用した講義配信による研修講座実施計画書

1 講座実施機関名 滋賀県総合教育センター

2 講座の趣旨

・特別支援教育 特別講座「特別な教育ニーズに応じた教育的支援」

LD, ADHD, 高機能自閉症等の特別な教育的支援が必要な子どもの理解を深め、対応のあり方を研修する。

3 講座の内容

(1) 特別な教育的支援が必要な子どもの理解（センターでの講義：学識経験者）

(2) 特別支援教育特別講座Ⅰ（特殊研からの講義配信：会場 滋賀大学教育学部附属養護学校）

－LD, ADHD, 高機能自閉症の理解と対応１－ ※講義配信を利用

(3) 特別支援教育特別講座Ⅱ（特殊研からの講義配信：会場 滋賀大学教育学部附属養護学校）

－LD, ADHD, 高機能自閉症の理解と対応２－ ※講義配信を利用

(4) 特別支援教育特別講座Ⅲ（特殊研からの講義配信：会場 滋賀大学教育学部附属養護学校）

－LD, ADHD, 高機能自閉症の理解と対応３－ ※講義配信を利用

4 講座の対象者及び定員

保・幼・小・中・高・特殊教育諸学校教職員 60名

※(1)の定員のみ200名 それぞれ1日のみの受講も可能としている。

5 実施予定日・時間

(2) 平成15年8月18日（月）9：30～12：00

(3) 平成15年8月19日（火）9：30～12：00

(4) 平成15年8月20日（水）9：30～12：00

6 講座の日程と内容

内 容	形態	時 間	配信する講義・担当者	資料
特別支援教育 特別講座Ⅰ	講義 協議	9:30～12:00	文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課 特別支援教育調査官 柘植 雅義 (研究所講義 6月17日「LD,ADHD 等軽度発達障害への対応」を視聴)	レジメ他
備考： 講義配信は90分程度を予定。 残った時間は協議を行う。 参加者の西谷 淳教諭（甲賀郡甲西町立三雲小学校）に滋賀県内の事例として甲西町発達支援センターの事例等を紹介いただく。 特殊研からインターネット接続テレビ会議による協議参加実験を行う。 （小野主任研究官が対応）				

特別支援教育 特別講座Ⅱ	講義 協議	9:30～12:00	講義配信 1 情緒障害教育研究部長 渥美 義賢 (「軽度発達障害児の理解と指導」 (別撮り) を視聴)	レジメ他
			講義配信 2 情緒障害教育研究部室長 花輪 敏男 (研究所講義 7 月 18 日「ADHD の 理解と支援」 を視聴)	
	備考： 講義配信は70分程度のものを中休みを挟んで 2 本視聴する。 協議等を行わない。 視聴終了後、受講者はアンケート記入をして終了とする。			
特別支援教育 特別講座Ⅲ	講義 協議	9:30～12:00	分 室 長 東條 吉邦 (研究所講義 7 月 2 4 日「高機能自 閉症の理解と支援」 を視聴)	レジメ他
			備考： 講義配信は90分程度を予定。 残った時間は会場校の黒田 吉孝校長（滋賀大学教授）がミニ講演と質疑 応答を行う。	

7 講座担当者

実施機関： 滋賀県総合教育センター 富永 善隆
滋賀大学教育学部附属養護学校 石部 和人
特殊研： 情報教育研究部 大杉 成喜

滋賀県総合教育センター

受信場所：滋賀大学教育学部附属養護学校 会議室

講座名：学習障害（LD）講座 特別な教育的ニーズに応じた教育的支援

定員を60名とし、単独受講可としている。若干の増を認めていた。

実施日時：平成15年8月18日(月) 19日(火) 20日(水) 9:30～12:00

受講者：1日目 64名（保幼10名、小27名、中8名、高4名、養13名、その他2名）

2日目 64名（保幼9名、小36名、中7名、高2名、養7名、その他3名）

3日目 60名（保幼7名、小30名、中14名、高1名、養7名、その他1名）

受信機器：ノートパソコン 外部音声出力端子より小型スピーカーに接続

受信状況：画像音声とも良好（ただし、WindowsMediaは受信できず、RealMediaで受信）

研修講座の構成

1日目（8月18日）

講義視聴：No.177「LD、ADHD等軽度発達障害への対応」 柘植 雅義（01:19:32）

事例発表：「甲西町発達支援センターの事例」 甲賀郡甲西町立三雲小学校 西谷 淳教諭

特殊研とのテレビ会議による質疑応答：小野主任研究官・海津研究員

2日目（8月19日）

講義視聴：No.173「軽度発達障害児の理解と指導」 渥美 義賢（01:02:21）

・5分間の中休み

講義視聴：No.213「ADHDの理解と支援」 花輪 敏男（01:13:19）

・2日目は講義配信2講座を視聴し、質疑応答等はなし。

・午後より滋賀大学教育学部附属養護学校のワークショップ【夏季講座】が実施された。



3日目（8月20日）

講義視聴：No.219「高機能自閉症の理解と支援」東條 吉邦（01:14:50）

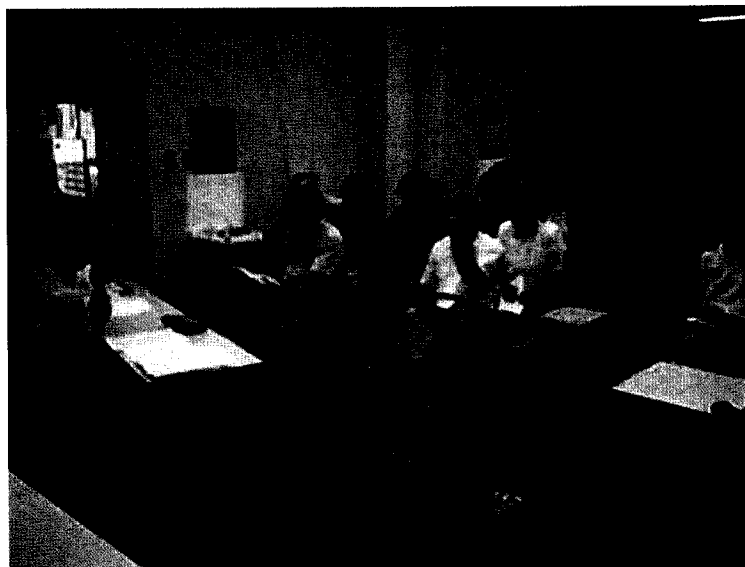
事例発表：久保 容子教諭（滋賀大学教育学部附属養護学校）

講義・質疑応答：黒田 吉孝校長（滋賀大学教授）

- ・ 東條分室長の講義を受けて、現地で事例発表（附属養護学校教諭）と黒田校長より補足・質疑応答を実施した。
- ・ 事例発表では滋賀大学附属養護学校中学部に在籍する自閉症スペクトラムの生徒とADHDの要素を持つ生徒の関係等に関して提案が行われた。

考察：

- ・ 今回は滋賀県総合教育センターのネットワーク回線の問題でインターネット講義の受信ができなかったため、ネットワーク環境のよい滋賀大学教育学部附属養護学校を会場にした。
- ・ 講義資料が電子化されていないため、インターネットでの送付ができず、Faxで送付を行った。今後、全ての資料を講義配信Webサイトよりダウンロードできるように、システムを再構築すべきである。（仕様変更のため新たな予算が必要である。）
- ・ 現地での事例発表、インターネットテレビ会議による質疑応答との組み合わせは好評であった。都道府県のセンター講座の場合、「インターネットによる講義配信も利用する」といった講座構成が必要ではないかと考えられる。



インターネットを利用した講義配信による研修講座実施計画書

1 講座実施機関名 大阪府教育センター

2 講座の趣旨

(1) 学習障害等の児童生徒の教育指導方法に関する知識や技能についての研修を行い、担当教員の資質及び専門性の向上を図る。

3 講座の内容

(1) LD, ADHD, 高機能自閉症等の理解について

4 講座の対象者及び定員 30名～100名

5 実施予定日・時間

平成15年 9月22日（月）14:10～15:10（平成15年度障害教育担当指導主事研修）

平成15年10月16日（木）14:10～15:10（学習障害等研修）

6 講座の日程

内 容	形態	時 間	配信する講義・担当者	資 料
LD, ADHD, 高機能自閉症等の理解について	講義協議	14:10～15:10	情緒障害教育研究部長 渥美 義賢 「軽度発達障害児の理解と指導」 (別撮り)	レジメ 他

内 容	形態	時 間	配信する講義・担当者	資 料
LD, ADHD, 高機能自閉症等の理解について	講義協議	14:10～15:10	情緒障害教育研究部長 渥美 義賢 「軽度発達障害児の理解と指導」 (別撮り)	レジメ 他

7 講座担当者

実施機関： 主任指導主事

須田 正信

特殊研： 情緒障害教育研究部

是枝 喜代治

8 講座実施までのスケジュール

9 その他

大阪府教育センター

受信場所：大阪府教育センター 第3研修室（本館4階）

講義視聴：No.173「軽度発達障害児の理解と指導」渥美 義賢（01:02:21）

平成15年9月22日（月） 14：10～15：10

講座名：平成15年度障害教育担当指導主事研修会

受講者：市町村の障害教育担当指導主事37名 他

配信現場の状況：

- ・スクリーンセーバーが起動した。配信途中でノイズが割れてしまう場面があった。
- ・配信に使用した部屋が縦長の部屋であったため、後方では画面が見えにくい面があった。
- ・指導主事にとって関心のある内容であり、興味深く聞いたという感想も多かった。

受講者より：

- ・今回は市町村の指導主事が対象で、モデル事業等の説明も含めた形で実施されていた。講義配信に対する参加者のイメージの相違もあり、細かな部分での評価は分かれたが、配信そのものの利用については前向きな意見が多かった。
- ・市町村や学校での活用に関しては、大いに活用したいという意見が多かった。
- ・講義の収録に関しては、カメラの目線の位置、問の取り方などの話し方の工夫と共に、効果的なパワーポイントの利用法などを検討していくことが課題であろう。
- ・双方向性のテレビ会議式等の利用について記述されていたが、センターの普段の講座でも、その場では質問が出ずに、かえって後になって個人的に聞きにくるケースが多い。今後の広範な利用を考えるのであれば、双方向として位置づけるよりも、質問の内容について、研修の担当者がとりまとめ、メール等で回答してもらう形の方が現実的であろう。

平成15年10月16日（木） 14：10～15：10

講座名：学習障害等研修（第2回）

受講者：通常の学級、特殊（養護）学級、通級指導担当者、養護学校教員 106名



配信現場の状況：

- ・スクリーンセーバーを切り、音声もパソコンの出力を研修室の音源と接続して流した。
- ・配信後と30分程度経過した時点で、映像画面が止まることあり。その後は回復。終盤に映像が途切れることあり（パソコンの調整の関係と考えられるが、直ぐに復旧する）。
- ・講義配信の後、地元の通級指導教室の先生の実践報告（1時間半程度）があり、それと併せた形で講座が実施された。
- ・前回の受講者からの意見をもとに、画面は3分割のものから、講師の画面を中心としたものに切り替えて実施した。会場の後方部からも、インターネットを通した講師の表情は見えたと、ほとんどの受講者はレジメと資料で説明を聞くという形であった。

受講者より：

- ・概ね良いとする結果であった（受講者の関心や、配信後の実践報告とタイアップして実施した関係もあると考えられる）。指導主事の評価に比べるとやや低い評価と思われる。
- ・アンケートでは、前回同様に音声の問題（聞き取りにくい）や画面の問題（必要性が感じられない等）が明記されていた。また、双方向的な利用（質疑応答）や指導面に比重をかけて欲しい（内容面の充実）旨の意見が見られた。受講者には内容（講義配信の利用）について事前に伝達されていなかったため、センターで実施する必要性を問う意見が見られた反面、学校等で利用するのであれば価値があるという意見も見られた。

インターネットを利用した講義配信による研修講座実施計画書

- 1 講座実施機関名
広島県立教育センター
- 2 講座の趣旨
(1) A D H D，高機能自閉症の理解と指導の深化を図る。
(2) 実態把握のためのアセスメントについての理解を深める。
(3) 実践交流及び協議を通し今後の取組みの参考とする。
- 3 講座の内容
(1) A D H D，高機能自閉症の理解と指導について
(2) 実態把握のためのアセスメントの活用について
(3) 実践交流及び協議
- 4 講座の対象者及び定員
指導主事及び教諭
- 5 実施予定日・時間
平成15年8月28日（木）10：00～17：00
- 6 講座の日程

内 容	形態	時 間	配信する講義・担当者	資料
特別支援教育モデル事業について	講義	10:00～ 11:00	広島県教育委員会障害児教育室 担当指導主事	
ADHDの理解と指導について	配信 講義	11:00～ 12:00	情緒障害教育研究部室長 花輪 敏男（7月18日 「ADHDの理解と支援」）	レジメ 他
高機能自閉症の理解と指導について	配信 講義	13:00～ 14:00	分室長 東條 吉邦（7月24日「高機能自閉症の理解と支援」）	レジメ 他
実践交流及び協議	協議	14:00～ 14:30	広島県立教育センター 指導主事 西谷 勝弘	
実態把握のための アセスメントの活用について	配信 講義	14:45～ 15:45	病弱教育研究部研究員 海津 亜希子（7月23日 「心理検査の解釈」）	レジメ 他
実践交流及び協議	協議	16:00～ 16:30	広島県立教育センター 指導主事 西谷 勝弘	
まとめ	協議	16:30～ 17:00	広島県立教育センター 指導主事 西谷 勝弘	

- | | | | | |
|---|------------------|-------|-------------|-------|
| 7 | 講座担当者 | 実施機関： | 指導主事 | 西谷 勝弘 |
| | | 特殊研： | 知的障害教育研究部室長 | 竹林地 毅 |
| 8 | 講座実施までのスケジュール | | | |
| | 研修会案内の起案，発送 | | 平成15年4月 | |
| | 研修会参加者の把握 | | 平成15年5月 | |
| | 実践報告者及び内容の検討 | | 平成15年7月 | |
| | 講義配信内容の決定及び打ち合わせ | | 平成15年4月 | |

広島県立教育センター

受信場所：県立教育センター情報教育棟講義室（80名定員）

講座名：障害児教育セミナー

実施日時：平成15年8月28日(木) 10:00～17:00

受講者：特別支援教育推進体制モデル事業総合推進地域 小・中学校教員及びセミナー参加希望者、等合計69名 小学校 49名 (校長 2名, 通常学級担任 16名, 特殊学級担任 25名, 通級指導教室担当者 2名, 養護教諭 2名, 介助指導員 1名, 日本語指導学級担当者 1名) 中学校11名 (通常学級担任 2名, 特殊学級担任 9名) 高等学校 1名 聾学校 2名 教育委員会 3名 療育センター 2名 幼稚園 1名

講義視聴：No.213「ADHDの理解と支援」花輪 敏男 (01:13:19)

No.219「高機能自閉症の理解と支援」東條 吉邦 (01:14:50)

No.218「心理検査の解釈」海津 亜希子 (01:04:56)

受信状況：

- ・センター担当者の考えで、講義1と3は講義者の画面のみ投影。講義2はプレゼンの画面も投影した。
- ・講義室に持ち込んだノートパソコンの設定ができておらず、講義配信の初期画面で停止した。情報教育担当者が設定して視聴できるようになった。
- ・配信途中でこま落ちが発生（当日、センター内で受講者100名程度のインターネット関連の講座が開講されていた影響か？午後の講義はバックアップCDで対応。）
- ・配信途中で閲覧ソフトが終了（持ち込んだノートパソコンのスリープ設定のためか？設定を解除したあとは問題なく作動した。）

受講者の様子

- ・3つの講義が連続ではなく、昼食や指導主事の講義をはさんだりしたためか、最後の講義まで集中力は持続していた。
- ・視聴途中にトラブルがあると、明らかに集中度が低下する。
- ・投影画面の違いについては、それぞれ肯定・否定意見あり。講義者の画面のみの方が投影画面をよく見ている。
- ・具体的な指導法に関わる部分は頷きながらメモをとる受講者が多くなる。



受講者や講座担当者の意見

- ・校内研修に利用したいという要望が複数記述されていた。講座終了直後、観察者に校内研修で使った旨、バックアップ用CDの貸し出しの相談があった。
- ・ライブでの講義の配信をイメージされていた受講者が少なからずあった。
- ・CDなら講座での活用度が上がる。回線の信頼性を考えるとCDを希望されている。
- ・講師旅費や謝金などがいらないので講座が組みやすくなる。配信講義の充実を期待する。
- ・センターが県内の各学校への貸し出しの窓口となることは可能。サテライト研修（出前講座）にも使えらると一層の有効活用になる。

考察：

- ・当初の計画にはなかったが、本講座がモデル事業の指定地域でのコーディネーター養成研修として位置づけられており、受講者のニーズに応じた講義配信になっていた。
- ・受講者にインターネットを利用した講義配信への肯定的なイメージをもってもらうことができた。
- ・改善点として①講義者の画面の拡大が効果的では。②実践報告や協議との組み合わせ等、配信を利用するときにモデルを示す必要がある。③校内研修での利用の要望への早急な対応。④講義者用マイクはピンマイクがよいのでは。⑤ライブでの講義（双方向）の検討。が考えられる。

インターネットを利用した講義配信による研修講座実施計画書

1 講座実施機関名 宮崎県教育研修センター

2 講座の趣旨

- (1) 教育活動全般にわたって、個々の能力、適性等に応じた研修を実施し、実践的指導力の向上を図り、教諭としての資質の向上に資する。
- (2) 喫緊の課題である通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童への配慮等について研修する。

3 講座の内容

- (1) LD, ADHD等の理解と指導法について、小学校教諭の認識を高める。
- (2) 講義形式による形態をとる。

4 講座の対象者及び定員 小学校10年経過教諭 97名

5 実施予定日・時間 平成15年8月26日(火) 13:00～14:00

6 講座の日程

内 容	形態	時 間	配信する講義・担当者	資料
LD, ADHD等の理解と指導法	講義	13:00～14:00 途中休憩なし	情緒障害教育研究部長 渥美 義賢 「軽度発達障害児の理解と指導」 (別撮り)	レジメ 他

7 講座担当者 実施機関： 情報・相談課 教育相談班 中島 浩美
特殊研： 情報教育研究部 小野 龍智

8 講座実施までのスケジュール

3月11日(火) 実施機関担当者と特殊研担当者の打合せ

宮崎県教育研修センター

受信場所：宮崎県教育研修センター 大研修室

講座名：公立小学校教職経験年数10年経過研修

実施日時：平成15年8月26日(火) 13:00～14:00

受講者：97名

受信状況：概ね良好。時々、ストリーミングが停止した場面があった（2秒程度）。

研修講座の構成：

13:00 事前説明（担当指導主事より）

13:05 講義開始

14:00 講義終了、感想及びアンケート記入

視聴の様子：

- ・いきなり講義が行われた。講義の内容に注目がむくには、時間がかかるように感じる。
- ・最初から、資料に目を落としている人が多い。スクリーンはあまり見ていない。
- ・子どもたちの実際の様子に話が及んでくると、顔を上げて聞く人が増えてきた。
- ・1時間は少々長いのではないかと感じられた。

講義終了後の意見：

- ・講師の映像があるので無機質な感じはしないが、1つの画面に対して2つの情報があるのはどうか。必要のない映像の部分があるのではないか。講師が下を向いているのはよくない。
- ・画面がありながら資料をみななければいけない。画面に資料があるので、そちらのほうにポイントをたくさん書いて欲しい。画面を見るだけでよいような形にして欲しい。ポイントで児童の様子などができるとわかりやすい。
- ・実際に来てもらうとコストなどがかかるが、インターネットを使うと手軽に情報が集められるのではないかな。
- ・確かに一方通行でビデオに録画したものを聞いているような感じで、インターネットの通信の成果を生かしているか？と感じている。



講座担当者用アンケート結果：

1) 配信した講義内容についての期待：少し違っていた。

通常の小学校の先生方にとって、もう少し基本的な内容を期待していた。

2) インターネットによる講義方法の予想：概ね予想していたとおり。

3) 画面の見やすさ：

概ね見やすかった。：動画の部分が小さくて、大勢で見る場合、見にくかった。

4) 音声の聴きやすさ：概ね聴きやすい。

5) 講義の時間について

概ね適切だった。：配信ということも関係するが、聞くことが主となるので限界かもしれないと思われる。

6) メリットと考えられること：

専門的な内容を聞くことができる。

7) デメリットと考えられること：

一方向的な配信で、疑問をぶつけることができない。

8) 次年度以降の利用について：

利用したい。

9) 改善点について：

講義内容の精選（内容の検討）